

平成 28 年度全国学力学習状況調査（中学 3 年生）の結果をお知らせします

平成 28 年 10 月 29 日

唐津市立馬渡中学校

平成 28 年 4 月 19 日（火）に、全国学力学習調査（国語 A B，数学 A B，理科，児童質問紙）が実施されました。

その結果が届きましたので、これまでの学校の取り組みや課題等も含めてお知らせします。

【教科に関する調査結果】

- ・国語 A（基礎的内容）の本校の正答率は、全国、県を 2～3 ポイント程上回りました。国語 B（応用的内容）の本校の正答率は、全国、県を 5～7 ポイント程下回りました。
- ・数学 A の本校の正答率は全国、県を 8～12 ポイント程上回りました。数学 B は 3～5 ポイント程上回りました。



【各教科の領域別の傾向について】

- ・国語 A では、「書くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国や県をやや上回りました。
- ・国語 B では、すべての観点で全国や県の正答率を下回りました。特に「書くこと（今回の調査では、文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題）」で大きく下回りました。
- ・数学 A では、すべての観点で全国や県の正答率を上回りました。
- ・数学 B では、「数と式や資料の整理についての技能」で全国や県を上回りましたが、「図形や関数についての見方や考え方（説明する問題・照明する問題等）」で下回りました。

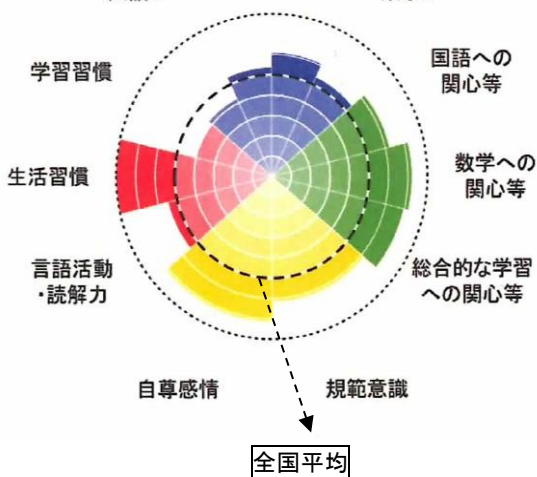
【児童質問紙結果】

児童質問紙（全国基準）

国語A 数学A

国語B

数学B



【児童質問紙調査結果について】

- ・就寝、起床、朝食など規則正しい生活習慣についてはよく定着できているという回答になっています。
- ・4月の調査で家庭学習の習慣が余りできていない結果になっていましたが、現在はよく頑張っている生徒が増えてきています。
- ・授業での発表の機会の多さや、授業での話し合い活動の頻度についての回答では、全国や県を上回っています。少人数での授業であることや、本校で実践している話し合い活動が定着してきていることが要因として挙げられると思います。

【「読む」力について】

今回の4月調査の国語Bでは「読む」領域については低い正答率でした。国語Bや数学Bの「活用問題」では、問題を正しく読み取れずに正答を導き出せない場合が目立ちます。「読む」力は、国語だけではなく、あらゆる学習の基本となるものです。今の子ども達は活字に親しむことが少なくなっていると言われます。本校の生徒を見ても、絵やマンガが多く付いた本や、ゲーム、アニメ関連の取っ付きやすい本を読むことが多いようです。国語の授業での指導とともに、学校や家庭での読書習慣も見直していく必要があります。

【これまでの取り組み】

- ・思考力、判断力、表現力を培うために、授業において話し合い活動や自分の考えを説明したり文章に書いたりする活動を増やしてきました。
- ・スピーチ朝会を定期的に行い、発表や感想の交流をすることを通して、表現力の向上を目指してきました。
- ・漢字の書き取りや基礎的な計算力の定着のために、練習や小テスト等に継続して取り組んできました。

【これからの取り組み】

- ・思考力、判断力、表現力を高めていくために、有効な話し合い活動を中心とした授業や書く活動に、引き続き取り組んでいきます。
- ・朝読書、図書室利用の奨励や良書の紹介等により、読む活動の充実を図っていきます。
- ・放課後の学習会を定期的に行い、基礎基本の定着や学力向上に力を入れていきます。